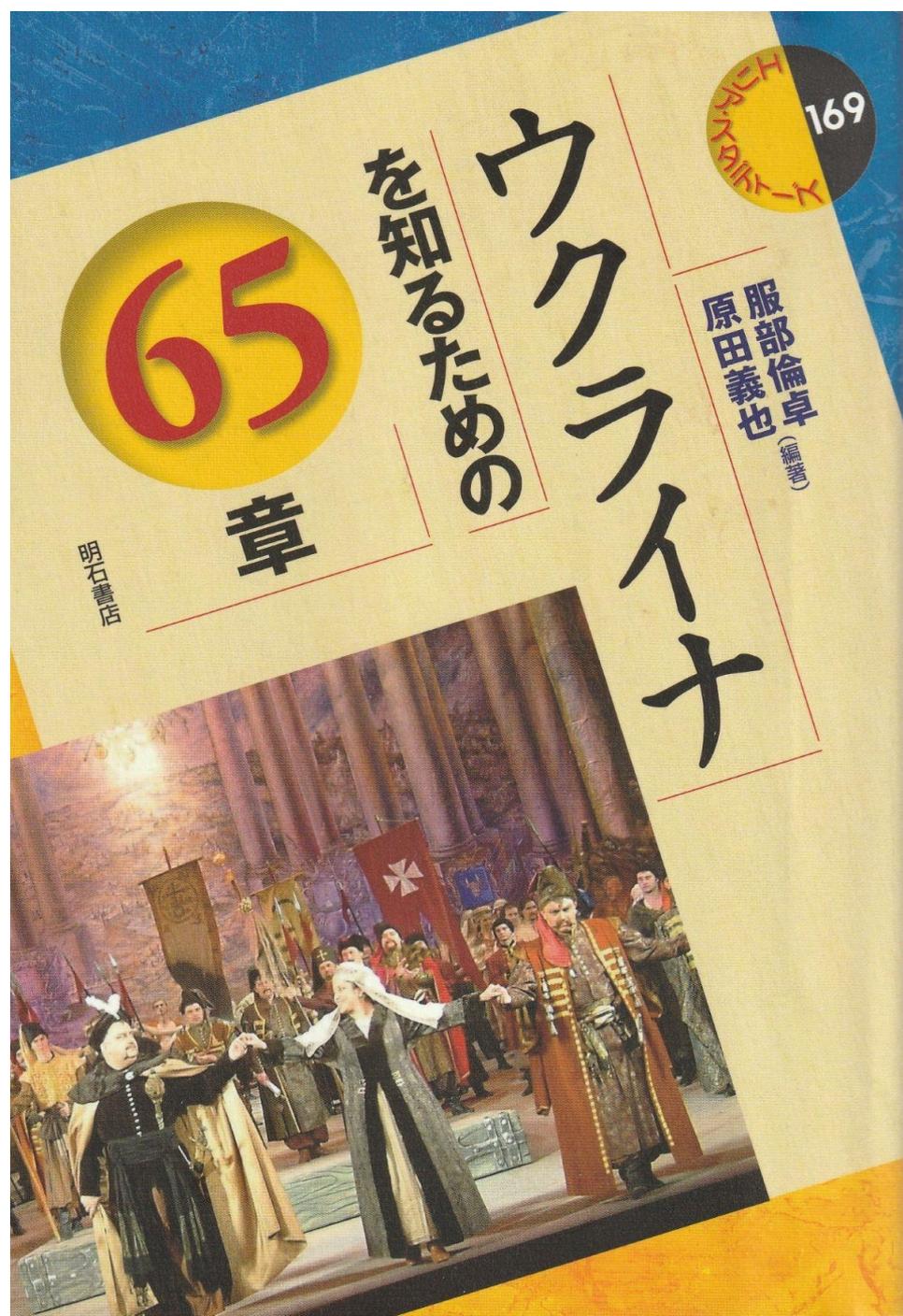


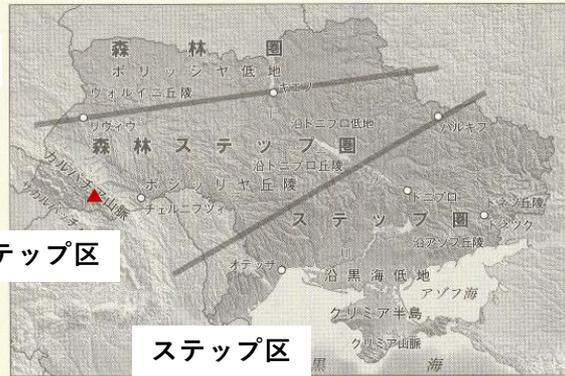
ウクライナ

(何も知らなかった「大国」)

- 距離の遠い国 馴染みがない国
- 「ウクライナを知るための65章」 (明石書店・エリア・スタディーズ) 編集・服部倫卓、原田義也 2018.10.25 2000円+税
- 「コサック」「ボルシチ」「戦艦ポチョムキン」「チェルノブイリ原発」
- 1991年建国の新しい国家
「歴史なき民」
- 「大国に囲まれた辺境の荒野」



さまよう「荒野」 (1991年独立までの歴史)



キエフ・ルーシ大公国

- ・9世紀後半から13世紀半ば（東スラブ三兄弟）
- ・13世紀以降、モンゴル帝国の侵攻により領土が破壊、ポーランド・リトアニア共和国、オーストリア＝ハンガリー帝国、オスマン帝国、ロシア・ツァーリ国などによって支配、分割。

コサック「国家」

- ・16世紀以降コサック胎動（ポ支配への不満）
- ・1649年「ヘトマン国家」（民族の記憶）
- ・1667年領土はポ・ロ間で分割、しだいにロシア帝国に取り込まれる。

第1次大戦とロシア革命

- ・1772年第1次ポーランド分割で、ウクライナの大半はロシアとハプスブルグ帝国下に。
- ・大戦と革命（1917年11月）の結果、西はポーランド（一部チェコ、ルーマニア）、東はウクライナ・ソビエト社会主義共和国としてソ連邦に。

ソ連体制のウクライナ

- ・当初ウクライナ化政策、1934年大粛清で終了。
- ・第2次大戦により大きな被害。西への領土拡大、住民交換、ロシア化。
- ・スターリン批判、ウクライナ化へ。その後紆余曲折を経て、1991年12月「住民投票」「大統領選挙」を実施。同年末ソ連崩壊。ウクライナ建国。

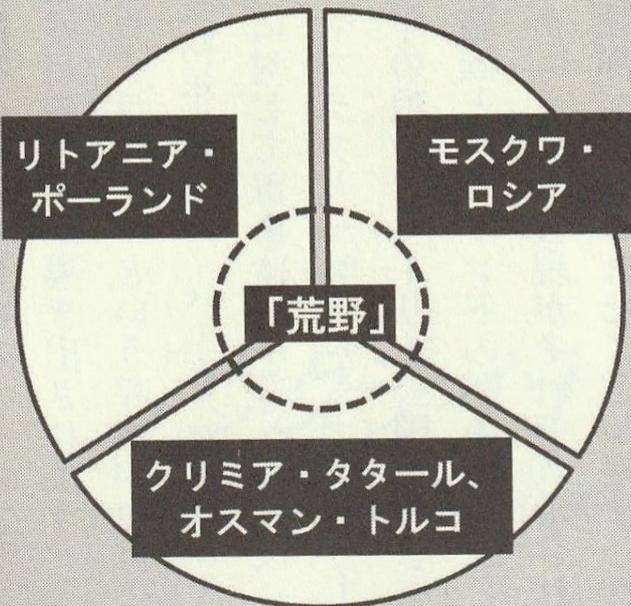
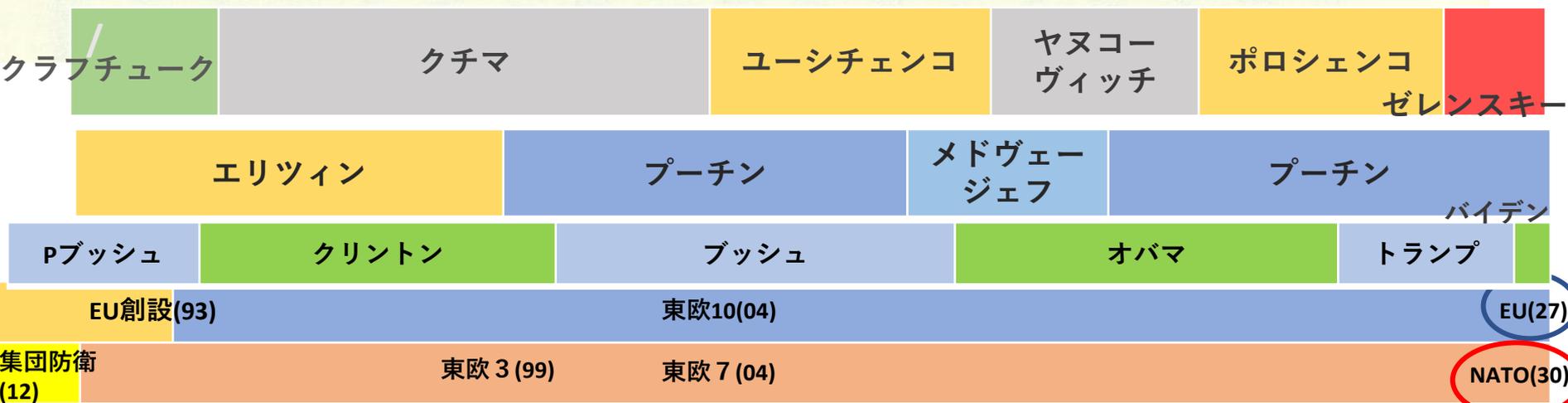
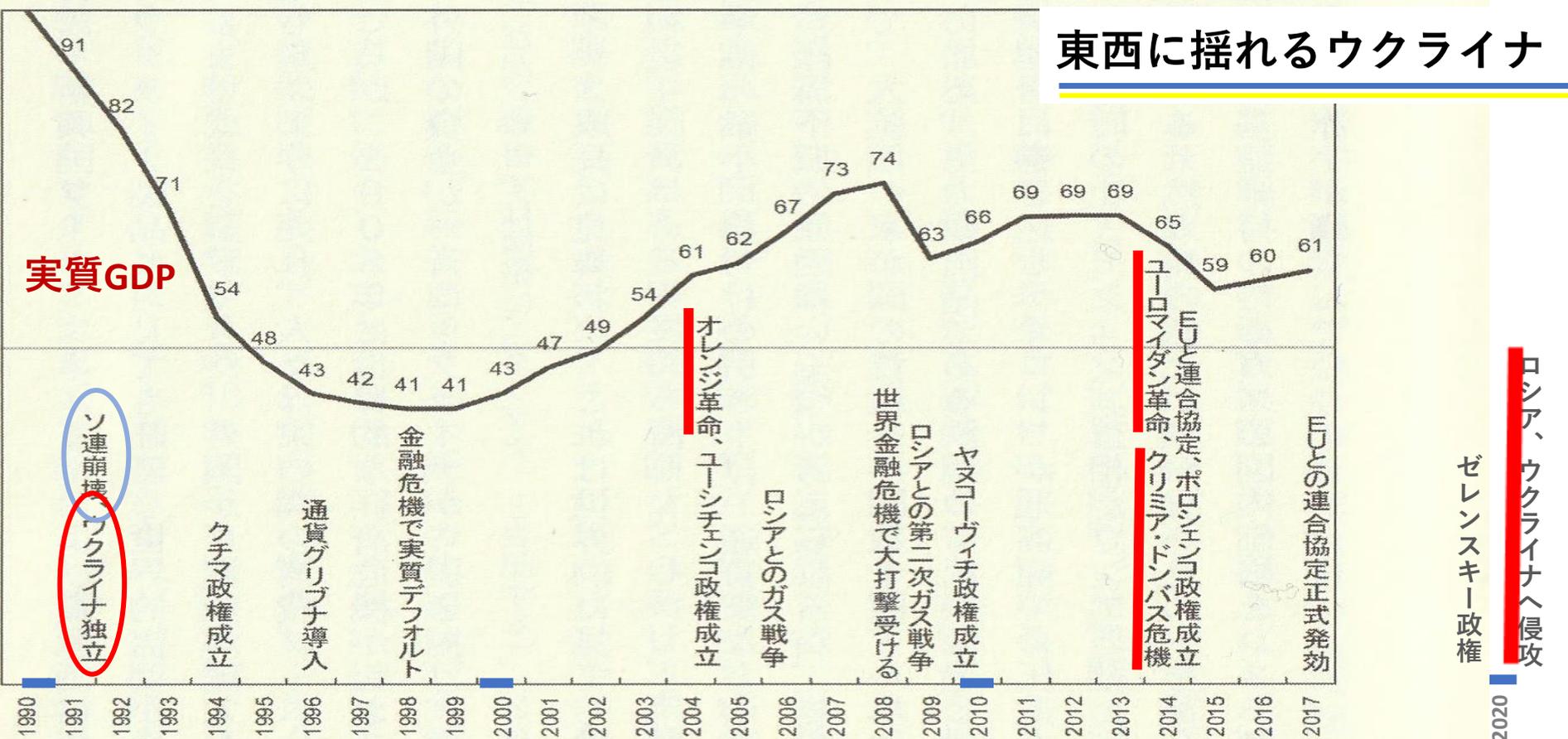


図 「荒野」形成の概念図

東西に揺れるウクライナ

実質GDP



東西に揺れるウクライナ

1991~2000

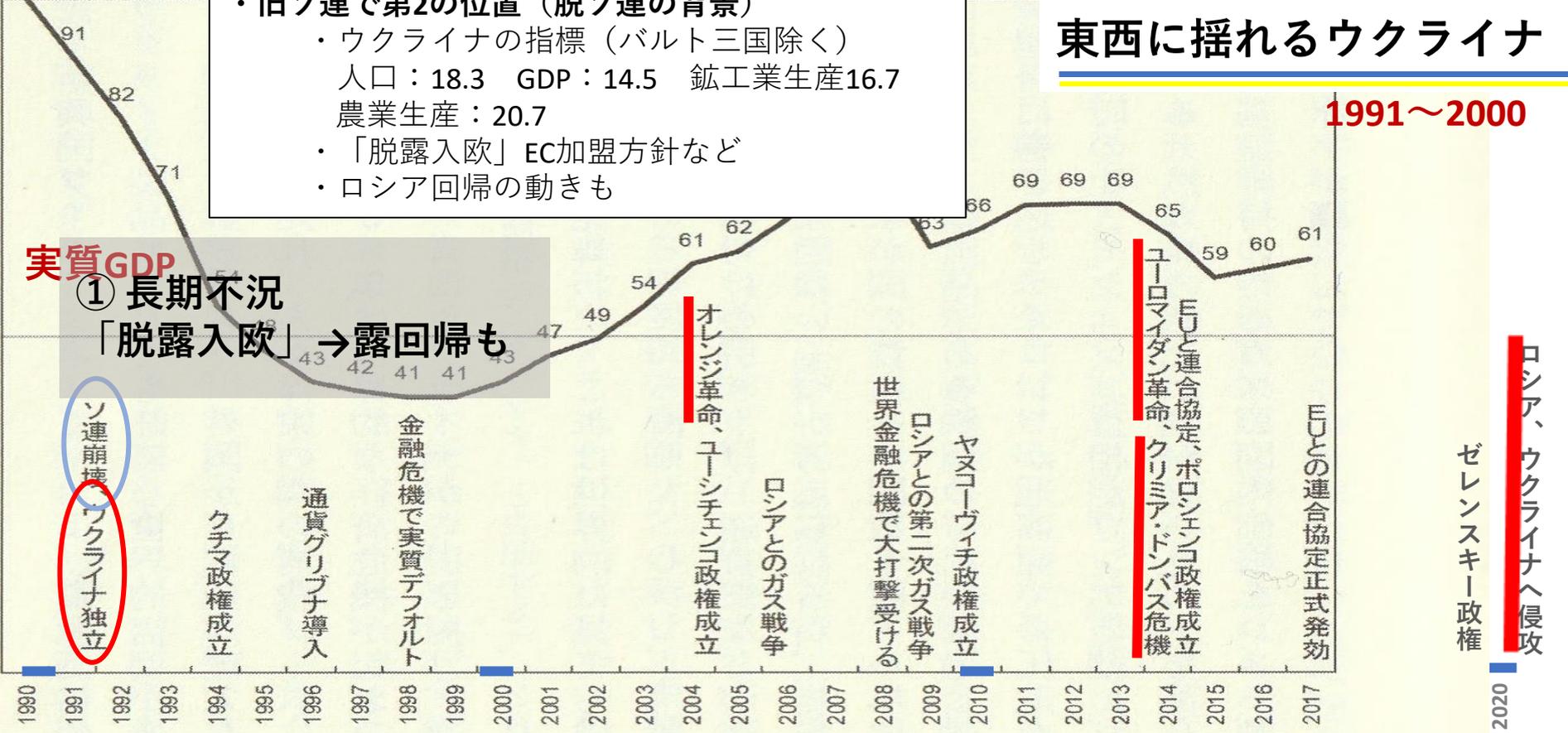
- ・旧ソ連で第2の位置 (脱ソ連の背景)
- ・ウクライナの指標 (バルト三国除く)
人口：18.3 GDP：14.5 鉱工業生産16.7
農業生産：20.7
- ・「脱露入欧」EC加盟方針など
- ・ロシア回帰の動きも

実質GDP

① 長期不況

「脱露入欧」→露回帰も

ソ連崩壊
ウクライナ独立



ソ連崩壊、ウクライナ独立 (1991)

クチマ政権成立 (1994)

通貨グリブナ導入 (1996)

金融危機で実質デフォルト (1998)

オレンジ革命、ユーシチェンコ政権成立 (2004)

ロシアとのガス戦争 (2006)

世界金融危機で大打撃を受ける (2008)

ロシアとの第二次ガス戦争 (2009)

ヤヌコーヴィチ政権成立 (2010)

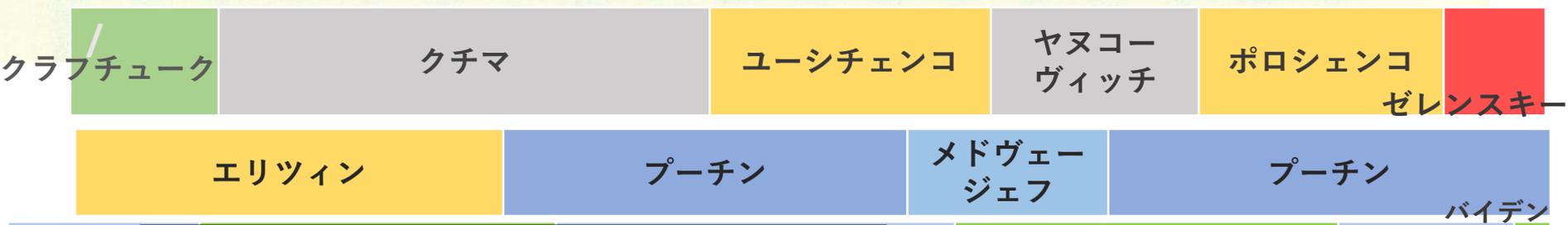
EUとの連合協定、ポロシェンコ政権成立 (2014)

ユーロマイダン革命、クリミア・ドンバス危機 (2014)

EUとの連合協定正式発効 (2017)

ゼレンスキー政権 (2019)

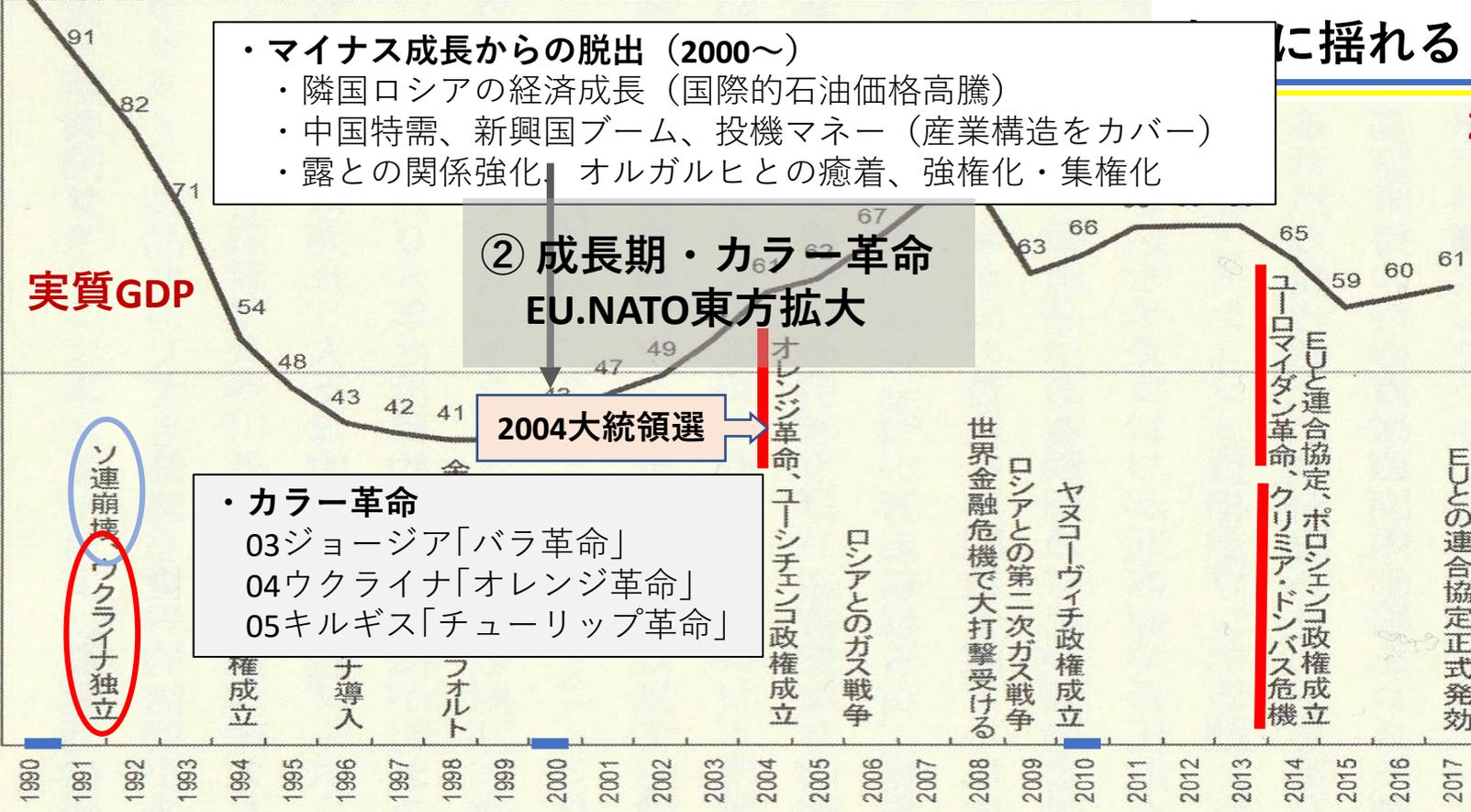
ロシア、ウクライナへ侵攻 (2022)



- ・経済の脆弱性が露呈 (旧ソ連で最長の不況)
 - 石油・ガスの不足、社会主義体制の工業製品・大統領と首相の対立・政治の腐敗、非効率・オリガルヒの政財界支配など
- EU創 (2004)
- EU(27) (2007)
- NATO(30) (2008)

に揺れるウクライナ

2000~2008



東西に揺れるウクライナ

・世界的経済危機（経済停滞局面へ）

鉄鋼国際価格の下落、外国資金の引揚げ、生産停滞、経常収支の悪化、対外債務の増外貨準備の縮小、格付けの引き下げ、通貨安などが進行

↑

ロシアの通商面の圧迫
ロシアとのガス供給契約（2009）
ヤヌコーヴィッチの資産篡奪？

2008リーマンショック

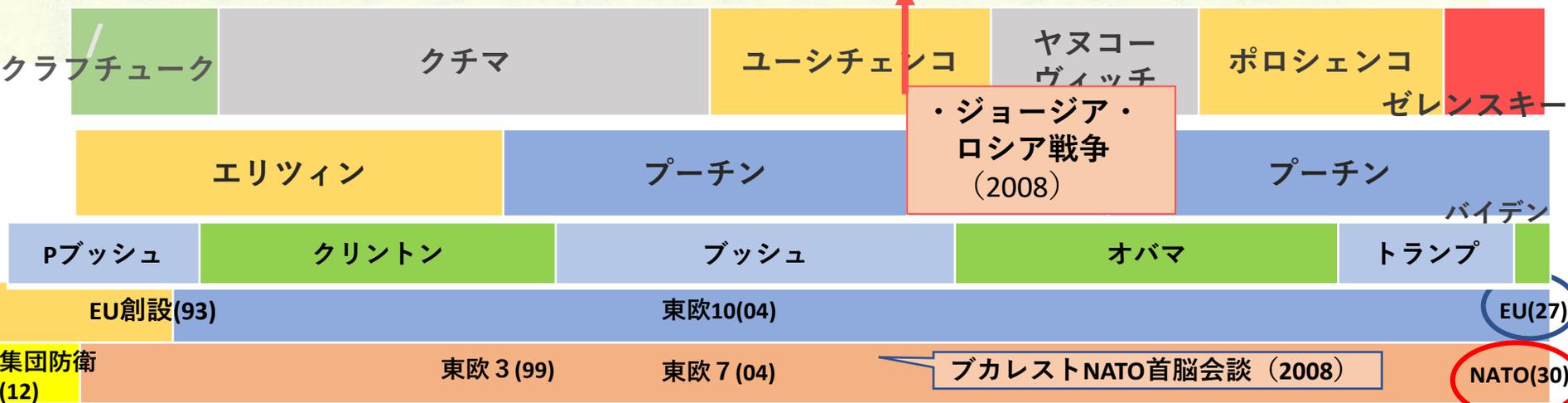
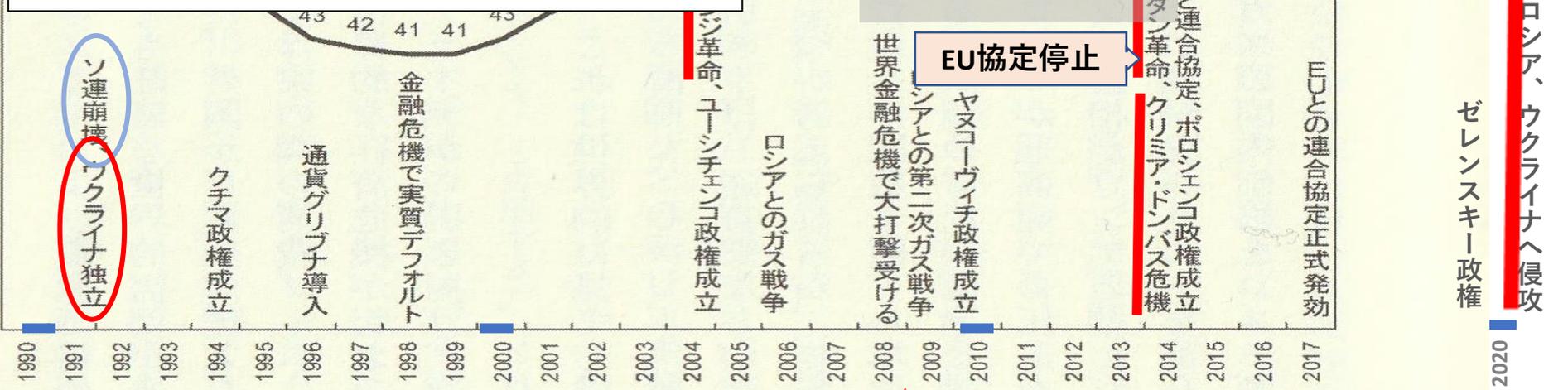
2008～2014

③ 停滞局面・ウクライナ危機

EU協定停止

ゼレンスキー政権

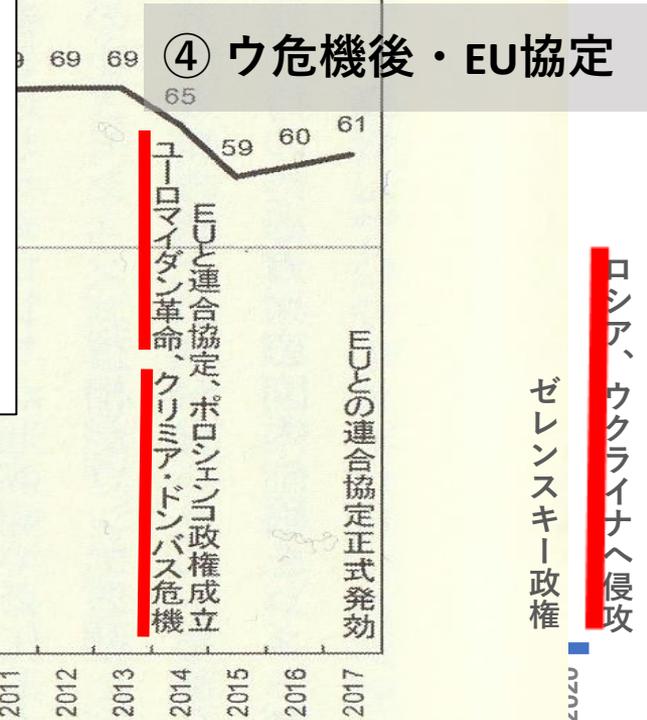
ロシア、ウクライナへ侵攻



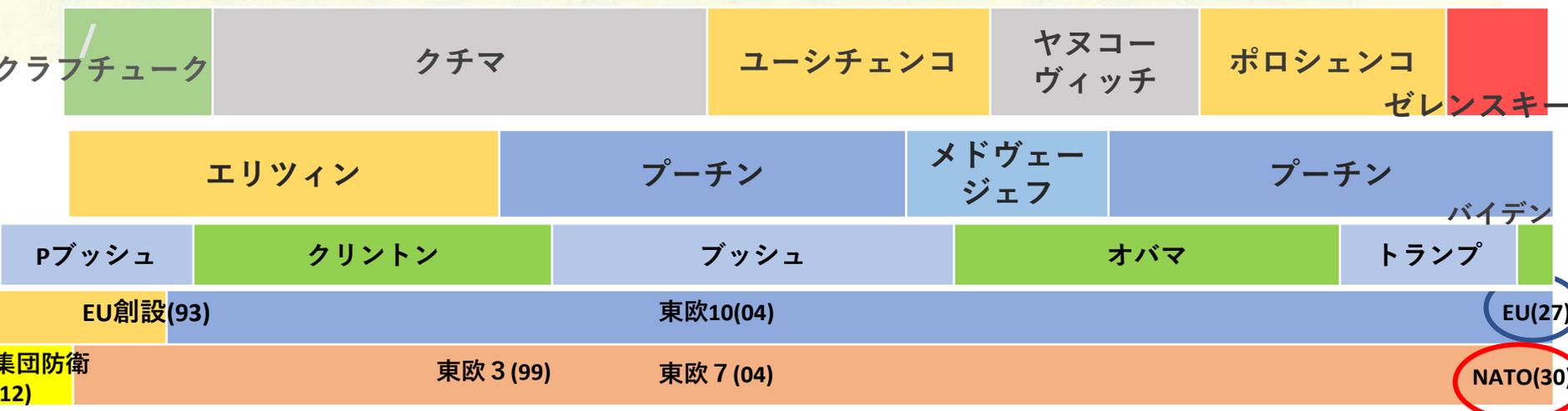
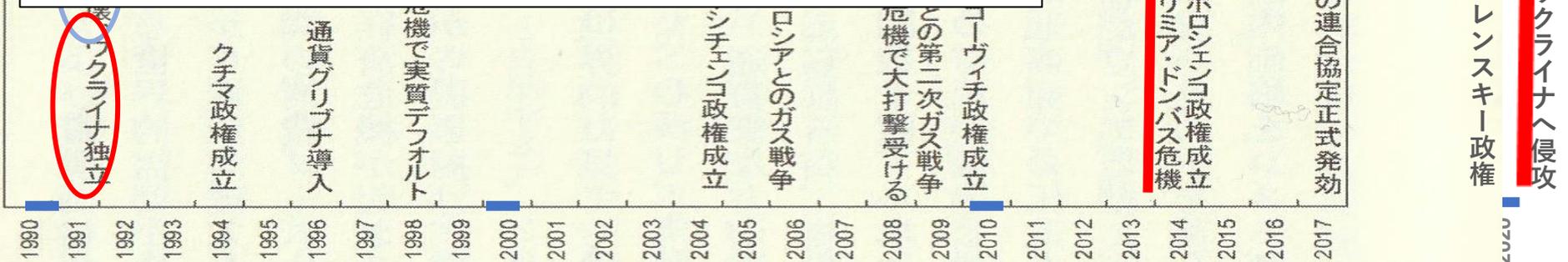
東西に揺れるウクライナ

2014~2022

④ ウ危機後・EU協定



- ・国民世論の変化
 - ・EU、NATO志向の増加
- ・ウ危機・EU協定の悪影響
 - ・クリミア併合・ドンパス紛争 (GDP約10%が実効支配不能)
 - ・ロシアとの通商関係の悪化 (露、ウ製品に関税導入)
- ・EU協定の効果
 - ・二つの柱 (即効的効果は期待しにくい)
 - ①深化した包括的な自由貿易圏DCFTA (大部分商品の関税撤廃)
 - ②EUモデルに沿った構造改革 (○パトロール警察、政府調達 ×汚職対策、治安機関)
- ・デフォルト危機
 - ・IMF支援プログラムなど、当面の危機回避





クラフチュク

1934年リウネ州生。1990ソ連共産党中央委員、ウクライナ最高会議議長。積極的なウクライナ化政策とロシアを離れ政策を推進するが、経済危機には対処できず支持は失墜、1994年の大統領選挙でレオニード・クチマ首相に敗北した。

クチマ

1938年チェルニーヒウ州生、大工場の総工場の長。建国後、首相に指名されるが、後辞任、抗現職大統領に立候補、当選する。EUやNATOに加盟を表明する一方、視策との関係も重く、その後新興財閥と強権化・集権化を反体制ジャーナリストの殺害に与したとの疑惑が持ち上がり政局は流動化した。クチマは打開するたため、ロシアに軸足を移しつつあった。

ユシチェンコ

1954年スームイ州生。大学卒業後、銀行員、後、独立行政腕を發揮。1999年国債不履行のためクチマから首相に交代が、議事を解任。2004年の大統領選挙で「与党」のコーヴィツァに抗して立候補。「オレンジ革命」の派と親しい選挙と大統領に就任。

ヤヌコーヴィツ

1950年ドネツィク州に生まれた。経済的に貧しいながら、働かざるで政府から補助金を受け、2002年に副首相に任命され、2004年の大統領選挙の候補するが敗退。その後コビト政権で人気を回復し、2010年の大統領選挙で勝利する。2013年EU連合協定の調印を見送った「ウクライナ危機」の途途中に死亡。

ポロシェンコ

1965年オデッサ州生。カカウ製菓「シェンコ」の社長。2005年「我々」の加入を命じられた。2014年の危機となると大統領に。

ゼレンスキー

1978年クルィヴィイリフ出身、ユダヤ系。ウクライナ大学卒業後、コメディアン。政治風刺ドラマ「国民の僕」の主演。大統領選挙に立候補当選。しかし経済、汚職、紛争「ミンスク合意」を解決できず、2021年には支持率25%まで後退した。